



## セカンド・パーティ・オピニオン SECOND PARTY PINION

---

東北電力株式会社

グリーンローン適格性 資金調達前

**Prepared by:** DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

**Location:** 神戸, 日本

**Date:** 2021 年 10 月 28 日

**Ref. Nr.:** PRJN-293770-2021-AST-JPN-01

## 報告書サマリー

東北電力株式会社(以下、「東北電力」)は、再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業の資金調達を目的としたグリーンローンの実行を計画しています。DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、「DNV」)は、東北電力からの委託に基づき、東北電力が策定した「東北電力グリーンファイナンス・フレームワーク」(以下、「フレームワーク」)に基づき実行が計画されているグリーンローン及びグリーンプロジェクトについて、グリーンローン原則 2021(ローン・マーケット・アソシエーション他 以下、「GLP」)、グリーンローンガイドライン 2020 年版(環境省 以下、「GLGLs」)を適用し、また適用可能な場合には気候ボンドイニシアチブ(以下、「CBI」)の定める気候ボンド基準 3.0 版(以下、「CBS」)の技術基準を参照し、適格性を評価しました。このグリーンローンにより実行される再生可能エネルギーによる電源の低・脱炭素化の推進のためのグリーンプロジェクトは下表に示す通りです。

グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクトカテゴリー	グリーンプロジェクト概要
水力発電事業	- 再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業	<p>「長者原発電所改修工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 発電容量：最大出力12,900kW (改修前 12,400kW)</li> <li>- 発電方式：水路式発電</li> <li>- 運開時期：2023 年 12 月(予定)</li> </ul>

GLP 及び GLGLs で示される 4 つの要素に対する評価結果概要は以下の通りです。

### 要素 1. 調達資金の用途：

東北電力は、資金使途の適格クライテリアを「再生可能エネルギーに関する事業」と定義しています。これはグリーンファイナンスとして幅広く認知されている各種基準に明示されている適格グリーンプロジェクト分類に合致します。具体的には水力発電の開発、建設、運営、改修、その他関連支出に対する新規投資に充当されることが計画されています。これら事業は明確な環境改善効果をもたらすことが期待され、電気事業者の自主的な温暖化対策の取り組みである「低炭素社会実行計画」、東北電力グループ環境方針、再生可能エネルギー発電に関する取り組み及びカーボンニュートラルチャレンジ 2050(2021 年 3 月策定)の加速、及び国連の「持続可能な開発目標」の推進に貢献すると考えられます。

### 要素 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス：

東北電力は、東北電力グループ環境方針を策定しており、環境面での持続可能性に係る目標を掲げています。またグリーンプロジェクトの評価及び選定は、適切な社内決定プロセスにより承認されます。具体的には、再生可能エネルギーに関する事業を所管する室部が環境目標及び適格クライテリアに基づいてプロジェクト候補を選定し、取締役会により最終承認されます。また、経理部においてその適格プロジェクトの適合性を確認します。これらのプロセスはグリーンファイナンスの各種基準に合致するものです。

### 要素 3. 調達資金の管理：

調達された資金は、経理部によって常時追跡できる経理システムによって管理されます。調達資金には固有の資産管理コードが付与され、調達した資金は選定プロジェクトの新規投資の合計額を超えないように管理されます。未充当資金はプロジェクトに充当されるまでの間、社内規定に基づき現金及び現金同等物として管理されます。これらはグリーンファイナンスの各種基準に合致します。当該グリーンローンの実行によって調達する資金については、その全額をファイナンス子会社「TDG ビジネスサポート株式会社」から、当該グリーンプロジェクトを実行するグループ会社である「東北自然エネルギー株式会社(TOUSEC)」への貸付を通じて充当され、その後 TOUSEC より実施される改修工事資金として利用されます。

### 要素 4. レポートニング：

東北電力は、年次の統合報告書又はウェブサイトにおいて、調達資金の充当状況を報告する予定です。また環境改善効果として、再生可能エネルギー種別の年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量及び設備容量に関連する指標を開示することを予定しています。

DNV は、フレームワークをはじめとする東北電力より提供された関連文書・情報から、グリーンローンが関連する基準を満たし、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

今回東北電力が、グリーンローン実行に伴い、追加で外部レビューを取得することは、金融機関をはじめとする様々なステークホルダーに対する積極的な情報開示であり、当該プロジェクトのグリーン適格性やその実行計画及び体制について透明性や信頼性が確保されるものです。東北電力のグリーンファイナンスを活用した環境にやさしいエネルギーサービスによって、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが、市場に幅広く認知されるものと期待されます。

## 目次

報告書サマリー	2
Ⅰ まえがき	4
Ⅱ スコープと目的	4
Ⅲ 東北電力及び DNV の責任	5
Ⅳ DNV 意見の基礎	6
Ⅴ 評価作業	7
Ⅵ 観察結果と DNV 意見	8
Ⅶ 評価結果	13
スケジュール-1 東北電力グリーンローンプロジェクト	14
スケジュール-2 グリーンローン適格性評価手順	15

### Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

### Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct<sup>1</sup> during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

---

<sup>1</sup> DNV Code of Conduct is available from DNV website ([www.DNV.com](http://www.DNV.com))

## I まえがき

### i) 東北電力について

東北電力株式会社(以下、「東北電力」又は「借り手」)は、日本の大手電力会社の一つで、発電事業、送配電事業や電力小売り事業等を行っています。昭和 26 年に設立され、主に東北 6 県(青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県)と新潟県を事業基盤としています。東北電力は、グループ環境方針に基づき、東北・新潟エリアを中心に 200 万 kW の再生可能エネルギー発電の開発を目指しています。東北電力は、これまでに 2020 年 2 月と 9 月に CBI 認証を取得した 2 つのグリーンボンド「東北電力グリーンボンド」(第 517 回社債)及び「第 2 回東北電力グリーンボンド」(第 524 回社債)を発行し、また 2021 年 8 月にはグリーンローンを実行し、資金調達を行っています。今般東北電力は、再生可能エネルギーの開発、建設、運営に関する事業に対する資金調達を目的として、新たにグリーンローンの実行を計画しています。

### ii) グリーンファイナンス・フレームワークについて

東北電力は 2021 年 8 月に、従来の「東北電力グリーンボンド・フレームワーク」を改訂し、「東北電力グリーンファイナンス・フレームワーク」(以下、「フレームワーク」)を策定しました。東北電力は、このフレームワークを活用して、環境改善効果の期待されるプロジェクトを実現する資金調達のために、グリーンローンを実行する予定です。調達した資金は、以下の適格グリーンプロジェクト分類に沿ったグリーンプロジェクトに充当される予定です。また、フレームワークはウェブサイトで開催する予定です。

- 再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業

## II スcopeと目的

東北電力は DNV に「東北電力グリーンファイナンス・フレームワーク」に基づいて実行されるグリーンローンに対する資金調達前の評価を委託しました。DNV における資金調達前評価の目的は、東北電力が、後述する基準である GLP, GLGLs 及び適用可能な CBS の関連する技術基準、他に関連する基準もしくはガイドライン(下表参照)に合致していることを確認するための評価を実施し、このグリーンローンの適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は参照可能な CBS 関連技術基準として、以下を確認しました。

- (水力発電) Hydropower Criteria, The Hydropower Criteria for the Climate Bonds Standard & Certification Scheme

水力発電のセクター適格クライテリアは、2021 年 3 月に公表されましたが、東北電力が想定する水力発電プロジェクトに対するグリーンローンによる資金調達前評価では、プロジェクトの特性上厳密な適用は難しいことから、グリーンファイナンスで示される「環境改善効果が明確であること、ネガティブな影響が回避されていること」に焦点を当てて評価しています。

DNV は、東北電力との間で合意された契約書に示された本業務の作業範囲を遂行するにあたって、利害関係が予見される直接的な株主としての関係を含めて、東北電力との間にその他一切の業務上の関係を保持していません。またこの報告書では、グリーンローンの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期的な環境便益に関する保証も提供されません。

### (1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目を評価し、GLP の主要な 4 要素との整合性について確認されました

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポートニング           |

### (2) レビュー提供者の役割

- |  |                              |
|--|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む)              | <input type="checkbox"/> 認証  |
| <input type="checkbox"/> 検証  | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他: グリーンボンド等発行登録支援者(外部レビュー部門)としてレビューを提供 |                              |

### (3) 適用される基準もしくはガイドライン

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル <sup>*1*2</sup>
1	グリーンローン原則 2021、GLP	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA) 他	適用
2	グリーンローンガイドライン 2020 年版、GLGLs	環境省	適用
3	気候ボンド基準 3.0 版 (対象セクター技術基準：水力発電)	気候ボンドイニシアチブ、2019	参照 (適用可能な技術基準)
4	グリーンボンド原則 2021、GBP	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照
5	グリーンボンドガイドライン 2020 年版、GBGLs	環境省、2020	参照
6	グリーンボンド及びソーシャルボンド：持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場協会(ICMA)、2020	参照
7	インパクトレポート調和化に関する冊子	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照

\*1 適用：各原則やガイドライン共通の 4 つの核全てに対する適格性を評価した

\*2 参照：今回のグリーンローンのプロジェクトや実行計画に基づき、関連する内容を部分的に考慮した

## Ⅲ 東北電力及び DNV の責任

東北電力は、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて東北電力及びファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々の提供する意見表明は、東北電力から提供された情報及び事実に依拠にしています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、東北電力の関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

## IV DNV 意見の基礎

DNV は、東北電力にとってより柔軟なグリーンローン適格性評価手順(以下「DNV の手順」)を作成するために、グリーンファイナンスの各種基準の要求事項を考慮した東北電力グリーンファイナンス評価手順を適用しました。この手順はグリーンファイナンスの各種基準に基づくグリーンローンに適用可能です。本報告書のスケジュール-2 に、DNV の評価手順が記載されています。

DNV のグリーンローン評価手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切なクライテリアを含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、グリーンファイナンスが「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とするべきである」というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのグリーンローンに対する基準は、以下の 4 つの要素にグループ分けされません。

- **要素 1 : 調達資金の用途** : 調達資金の用途の基準は、グリーンローンの実行体が適格性を有するグリーンローンにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。
- **要素 2 : プロジェクトの評価及び選定のプロセス** : プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンローンの実行体が、グリーンローン調達資金を用途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3 : 調達資金の管理** : 調達資金の管理の基準は、グリーンローンが実行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4 : レポーティング** : レポーティングの基準は、グリーンローンの利害関係者に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

## V 評価作業

DNV の評価作業は、東北電力によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他の試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

### i. 資金調達前評価

- 東北電力固有の DNV の評価手順の作成
- 東北電力より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクレビューによる補足評価
- 東北電力の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- クライテリアの各要素に対する観察結果の文書作成

### ii. 資金調達後評価( \*この報告書には含まれません)

- グリーンローン調達後に、東北電力により提供された根拠書類の評価、包括的なデスクレビューによる補足評価
- 東北電力の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 現地調査及び検査(必要な場合)
- 融資後時点での対象プロジェクト及び資産のレビュー(スケジュール-1 に記載された内容の更新)
- 融資後評価での観察結果の文書作成

## VI 観察結果と DNV 意見

DNV の評価アプローチは、GLP への適合に関連するリスクの理解と、それらを緩和するために実施される管理手法の理解に基づいています。DNV は、グリーンローンが GLP 及び GLGLs の要求事項に合致していることを確認するために、DNV が必要と判断した証拠やその他の情報及び説明を得るための評価を計画し、それを実行しました。なお、グリーンローンの GLGLs への適合については、GLP への適合と関連付けることが可能なため、評価結果は後述の通り、一つに集約した形でまとめました。DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

### (1) 調達資金の用途

DNV は、東北電力が調達する資金が、水力発電を行う長者原発電所の改修工事に関する事業に新規投資として充当される計画であることを確認しました。本報告書のスケジュール-1「東北電力グリーンローンプロジェクト」に、現時点の当該グリーンプロジェクトの詳細情報を記載しています。

グリーンプロジェクト概要	
 <p>写真：長者原発電所(改修工事前)</p>	<p>「長者原発電所改修工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業区分：水力発電事業</li> <li>所在地：山形県西置賜郡</li> <li>発電容量：最大出力12,900kW (改修前 12,400kW)</li> <li>発電方式：水路式発電</li> <li>運開時期：2023 年 12 月(予定)</li> </ul>

水力発電所は、プロジェクト実行に伴い、環境改善効果が明確であること、水系の利用や他の環境や社会への影響などに対するネガティブな影響が特定され、対処・回避されていることが確認されています。DNV は CBS の技術基準を参照し、長者原発電所が、付随的な CO<sub>2</sub> 排出を 100g-CO<sub>2</sub>/kWh 以下に抑制する目安としての貯水池/調整池に相当する表面積(m<sup>2</sup>)あたりの出力(W)で表す「発電密度」が基準値である 5W/m<sup>2</sup> 以上であること(2020 年より前に運開した発電所に対する基準)を満たすことが確認されています。

従って当該グリーンプロジェクトは、CBS の関連する下記セクター適格クライテリアに合致しています。

- (水力発電) Hydropower Criteria, The Hydropower Criteria for the Climate Bonds Standard & Certification Scheme

なお、水力発電のセクター適格クライテリアは、2021 年 3 月に公表されましたが、東北電力が想定する水力発電プロジェクトに対するグリーンローン資金調達前評価では、プロジェクトの特性上厳密な適用は難しいことから、グリーンローンで示される「環境改善効果が明確であること、ネガティブな影響が回避されていること」に焦点を当てて評価しました。

調達される資金は、全て新規のグリーンプロジェクトに投資される計画です。この事業は CO<sub>2</sub> 排出削減プロジェクトとして明確な環境改善効果をもたらすことが期待され、電気事業者の自主的な温暖化対策の取り組みである「低炭素社会実行計画」、東北電力グループ環境方針、再生可能エネルギー発電に関する取り組み、及びカーボンニュートラルチャレンジ 2050(2021 年 3 月策定)の加速、及び国連の「持続可能な開発目標」の推進に貢献す

と考えられます。これらの情報によって調達資金の使途は、グリーンファイナンスの各種基準に明示されている適格グリーンプロジェクト分類に合致することが確認されました。

### GLGLs で分類される調達資金の使途

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー    | <input type="checkbox"/> 省エネルギー  |
| <input type="checkbox"/> 汚染の防止と管理                | <input type="checkbox"/> 自然資源・土地利用の持続可能な管理   |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保全                 | <input type="checkbox"/> クリーンな運輸   |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源管理              | <input checked="" type="checkbox"/> 気候変動に対する適応   |
| <input type="checkbox"/> 環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング  |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載)             | <input type="checkbox"/> ローン実行時には未定であるが、現時点で GLP 分類または、GLP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される |

### (2) プロジェクトの評価と選定プロセス

東北電力は、東北電力グループ環境方針、再生可能エネルギー発電に関する取り組み及びカーボンニュートラルチャレンジ 2050(2021 年 3 月策定)に取組んでおり、環境面での持続可能性に係る目標を掲げています。DNV はレビューを通じて、スケジュール-1 に記載されているグリーンローンプロジェクトが東北電力グループ環境方針と一致していることを確認しました。

また東北電力は、類似の社内規定と同等の業務慣行に従って、適格グリーンプロジェクトの評価及び選定プロセスを定義しています。具体的には再生可能エネルギーに関する事業を所管する室部が、適格クライテリアに基づいたプロジェクト候補を評価・選定し、経理部においてその適合性を確認します。適格グリーンプロジェクトは、このような適切な社内決定プロセス、及び取締役会を経て最終承認されることを評価を通じて確認しました。東北電力はプロジェクトの評価及び選定にあたっては、グリーンファイナンスの各種基準の要求事項を考慮しており、このプロセスが要求事項に適合していることが確認されました。

### 評価及び選定

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 借り手の環境貢献目標の達成に合致していること                       | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること      |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンローンの調達資金の使途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること         | <input type="checkbox"/> (具体的に記載):  |

### 責任に関する情報及び説明責任

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載):              |  |

### (3) 調達資金の管理

DNV は、東北電力がグリーンローン融資から返済までの期間に、調達資金をどのように追跡管理するかの計画についてレビューしました。具体的には以下の通りです。

- グリーンローンによる調達資金の管理は、勘定科目「預金」において行う。未充当資金は、プロジェクトに充当されるまでの間、現金及び現金同等物として管理される。
- グリーンローン実行時、借り手の経理部(財務)は調達資金管理のために適格グリーンプロジェクト固有の資産管理コードを付与し、借り手の経理統合システムによって管理される。
- 資金充當時は、出資決定通知書ごとに経理部が適格プロジェクトに適合するかを確認し、実際の支出が経理統合システム上で追跡管理される。資産・負債勘定内訳表によって、資金充当完了までの間、適格プロジェクトの合計額がグリーンローン融資額を下回らないように管理する。
- 借り手の決算取扱基準にて規定される資金管理フローに従い、適合プロジェクト以外への資金流出を防ぐ。
- 当該グリーンローンの実行によって調達する資金については、その全額をファイナンス子会社「TDG ビジネスサポート株式会社」から、当該グリーンプロジェクトを実行するグループ会社である「東北自然エネルギー株式会社 (TOUSEC)」への貸付を通じて充当され、その後 TOUSEC より実施される改修工事資金として利用されます。
- 資金管理に関する決算諸表の保存は、借り手の決算取扱基準に定める保存年限に従い少なくとも 10 年間保存される。

以上より、DNV は、東北電力の資金総額の管理方法が適切でありグリーンファイナンスの各種基準の要求事項に適合していることを確認しました。

#### 調達資金の追跡管理:

- グリーンローンにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、借り手により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他 (具体的に記載):

#### 追加的な開示情報:

- 新規投資のみに充当
- 既存及び新規投資の両方に充当
- 個別(プロジェクト)の支出に充当
- ポートフォリオの支出に充当
- 未充当資金のポートフォリオを開示
- その他(具体的に記載):

#### (4) レポーティング

DNV は、東北電力が調達資金の全額が充当されるまでの間、年次の統合報告書又はウェブサイトにおいて、調達資金の充当状況を報告する計画であることを確認しました。この中には、以下が含まれる予定です。

- 未充当金の残高(グリーンローンの場合は調達金額に対する割合)
- 充当金額(グリーンローンの場合は調達金額に対する割合)
- 調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額(または割合)

また環境改善効果として、下記の指標を開示することを予定しています。

- 再生可能エネルギー種別の年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量(t-CO<sub>2</sub>/y)
- 再生可能エネルギー種別の設備容量(kW)

これらはグリーンファイナンスの各種基準の要求事項に適合していることを確認しました。またプロジェクトに重大な変化があった場合は適時その旨を開示する予定です。

**資金充当状況に関する報告事項:**

- プロジェクト単位
- 関連する個々のローン単位
- プロジェクトポートフォリオ単位
- その他(具体的に記載):

**報告される情報:**

- 資金充当額
- その他(具体的に記載):
- 投資総額のうちグリーンローンにより充当された額割合

**頻度:**

- 毎年
- その他(具体的に記載):
- 半年ごと

**インパクトレポート(環境改善効果):**

- プロジェクト単位
- 関連する個々のローン単位
- プロジェクトポートフォリオ単位
- その他(具体的に記載):

**頻度:**

- 毎年
- その他(具体的に記載):
- 半年ごと

**報告される情報:**

- GHG 排出量/削減量
- エネルギー削減量
- その他の ESG 評価項目(具体的に記載): 充当対象となった再生可能エネルギー種別の設備容量(kW)

**開示方法:**

- 財務報告書に記載
- 臨時報告書に記載
- レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載):
- サステナビリティレポートに記載
- その他(具体的に記載): 東北電力ウェブサイト

## Ⅶ 評価結果

DNV は、東北電力から提供された情報と実施された業務に基づき、東北電力がグリーンローン適格性評価手順の要求事項を満たしており、GLP 及び GLGLs の「環境・社会面で持続可能な経済活動と成長を促進し支援する」というグリーンローンの目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2021 年 10 月 28 日



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



香取 剛

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

### About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

### Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV: The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete.

## スケジュール-1 東北電カグリーンローンプロジェクト

表中のグリーンプロジェクト(発電容量、運開時期など)は、グリーンローン評価時点(2021年10月現在)で適格性を評価したプロジェクトです。

表-1 東北電カグリーンローンプロジェクト

No.	大分類	中分類	プロジェクト概要
1	再生可能エネルギー	水力発電	<p>「長者原発電所改修工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業内容：既存設備の改修工事</li> <li>● 所在地：山形県西置賜郡</li> <li>● 発電容量：最大出力12,900kW (改修前 12,400kW)</li> <li>● 発電方式：水路式発電</li> <li>● 運開時期：2023年12月(予定)</li> <li>● グループ会社の東北自然エネルギー株式会社(TOUSEC)が改修工事を実施</li> <li>● 本工事にあたり、東北電力による発電所周辺の環境影響評価(動植物調査)が行われている</li> </ul>

## スケジュール-2 グリーンローン適格性評価手順

下記 GL-1～GL-4 は、グリーンファイナンスの各種基準を基に作成された DNV のグリーンローン適格性評価手順です。

### GL-1 調達資金の用途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	グリーンローンは、GLP で定義されている以下のカテゴリーのいずれかに該当する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>•グリーンローン</li> <li>•グリーンシンジケートローン</li> <li>•グリーンクレジットライン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•関係者へのインタビュー</li> <li>•文書確認(※参考資料リストを参照)</li> </ul>	以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>•グリーンローン</li> </ul>
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、ローンに係る法的書類に適切に記載されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•関係者へのインタビュー</li> <li>•文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	調達資金の全額を「再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業の新規投資に充当する予定」であることが、グリーンローン実行に必要な法的書類や契約書等に記載される予定であることを確認した。
1c	環境面での便益	調達資金用途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は借り手によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•関係者へのインタビュー</li> <li>•文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	グリーンプロジェクトは、CO <sub>2</sub> 排出量削減として環境面での便益を有し、その環境改善効果は年次報告される予定であることを確認した。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、借り手は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•関係者へのインタビュー</li> <li>•文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	借り手は、資金充当状況のレポートを通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額(又は割合)」を明らかにする予定であることを確認した。

## GL-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>グリーンローンの借り手はグリーンローン調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 借り手が、対象となるプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>・ グリーンローン調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成</li> <li>・ 環境面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者へのインタビュー</li> <li>・ 文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	<p>借り手はグリーンローン調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセスを有しており、その概要をフレームワークの中で明記していることを確認した。</p>
2b	借り手の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>グリーンローンプロセスに関して借り手により公表される情報には、規準、認証に加え、グリーンローンの貸し手は借り手のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者へのインタビュー</li> <li>・ 文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	<p>借り手の実施するグリーンプロジェクトは、借り手のグループ環境方針、再生可能エネルギー発電に関する取り組み及びカーボンニュートラルチャレンジ2050(2021年3月策定)と一致していること、またプロジェクトの実行にあたっては、借り手の自主基準に基づき、環境側面が十分に配慮され、適切に対処されていることを確認した。さらに、継続して必要な調査・対応等についても適切に計画されていることを確認した。また、発電所種別固有の環境・社会影響評価が、関連する技術基準等を参照し考慮されていることを確認した。DNVはフレームワーク等の文書の確認や関係者へのインタビューを通じて確認した。</p>

### GL-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンローンによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る借手手の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、借手手によって証明されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	グリーンローンによって調達される資金に係る手取金は、借手手の経理統合システムに沿って追跡可能であり、社内規定に基づく確認プロセスにおいて証明されることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンローンの返済期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	グリーンローンの融資から返済までの期間、借手手は定期的に(少なくとも年次で)グリーンローンの残高をレビューする計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、借手手は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を貸手手に知らせるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	借手手の経理統合システム及び社内規定に基づく確認プロセスを通じて、未充当金の残高が逐次認識される仕組みであることを確認した。また資金充当状況のレポートングを通じて、未充当金の残高を明らかにする予定であることを確認した。

### GL-4 レポートング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、借手手はグリーンローンで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。 -守秘義務や競争上の配慮 -各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	借手手は、調達資金が充当されるまでの間、グリーンローンの年次報告を実施し、必要に応じて資金が充当されたプロジェクトの状況を開示することを確認した。